



芭蕉翁記念館だより

3月になり、ようやく暖かくなってきましたね。ひな祭り、お彼岸、卒業式など多くの行事を控えている人もいないのでしょうか。

芭蕉さんは、元禄元（1688）年、45歳のとき、2月18日の父親の三十三回忌法要にあわせて伊賀へ帰ってきて、約1カ月間滞在します。

この3月には、芭蕉さんが若き日に仕えていた藤堂新七郎家の花見の招待をうけ、句を詠んでいます。このとき招待したのは、かつて主人であった良忠の息子 良長で、探丸という俳号を用いて俳句に親しんでいました。そこで芭蕉が詠んだ、

さまざまの事もひ出す桜かな

という句に対して、探丸は、

春の日はやく筆に暮れ行く

と詠み添えたとされ、「さまざまの」の句は、伊賀にとって大切な句の一つとなりました。

他にも、この3月には、土芳の蓑虫庵を訪れたり、門人風麦の家で句会に参加したり、薬師寺月並初会

に参加しており、伊賀を出る19日までを多忙に過ごしました。芭蕉さんは、ふるさと伊賀で人々と俳句を楽しみ、また次の旅へと向かったのです。

◆冬の企画展「俳諧の歴史と芭蕉」開催中

3月9日(日)まで

◆ギャラリートーク

3月2日(日) 午後1時30分～（要入館料）

【問い合わせ】

○文化振興課 ☎ 22-9621 FAX 22-9619

○芭蕉翁記念館 ☎ 21-2219



伊賀市の文化財 157

伊賀国分寺跡の掩体壕

西明寺にある伊賀国分寺跡は、奈良時代に国ごとに建立された国分寺の一つです。東西220m、南北240mの範囲に、塔・金堂・講堂などの基壇の痕跡が明瞭に残り、史蹟名勝天然記念物保存法ができて間もない大正12（1923）年に指定された国の史跡です。しかし、戦時に一時指定解除されていたことがあり、海軍航空隊の飛行場が造成されたためです。

飛行場は、現在の上野東小学校、緑ヶ丘中学校あたりが滑走路で、その周辺には倉庫や機体整備場のほか、飛行機を敵の爆撃から守る掩体壕、掩体壕から滑走路への誘導路などさまざまな施設が設けられました。そのため、平坦な敷地が必要でした。伊賀国分寺跡は、国家が戦争の継続を図るなかで飛行場の敷地とするため、昭和19（1944）年9月に史跡指定を解除さ



▲伊賀国分寺跡に残る掩体壕



▲昭和21（1946）年5月米軍撮影空中写真（国土地理院）

れ、史跡地内に掩体壕が設けられました。現在でも伊賀国分寺跡の南側に古墳のように盛り上がり、周囲は爆撃から飛行機を守るため土手が築かれています。国分寺跡を壊して掩体壕が造られたことがよくわかります。幸いにも金堂や講堂など主要部分の破壊は免れ、戦後の昭和23（1948）年1月に再び国の史跡に指定されて現在に至っています。今年は戦後80年を迎えます。人びとに大きな被害をもたらした戦争の痕跡は、史跡の一角にも見出すことができます。

文化財課
☎ 22・9678 FAX 22・9667

明日に向かって ～差別をなくしていくために～

人権について考えるコラムです。

思い込みで行動していませんか ー多文化共生課ー

「外国人は税金払ってないやんなあ」と聞かれることがあります。当然のことながら、外国人住民も収入などに応じて課税され、税金を納めなければなりません。

「外国人ってゴミ出しのルール守らへんよなあ」という言葉も聞くことがありますが、すべての外国人住民は、ルールを守っていないのでしょうか。また、ルールを守らないのではなく、ルールがわからないからではないのでしょうか。

令和6年12月現在、伊賀市には45カ国の人が暮らしており、14人に1人が外国籍です。

「外国人住民は日本語がわからない」と思い込んでいる人もいるかもしれませんが、市の外国人住民アンケート調査では、9割近くの人が「読み書きは苦手だけど、簡単な日本語なら話せる」と答えています。

多文化共生課の窓口には、外国人住民からの相談

だけでなく、日本人住民からの相談もあります。

なかでも「隣に外国人が暮らしていて、伝えたいことがあるけど、どうしたらええやろ」という相談が多くあります。「まず、ゆっくりと簡単な日本語（やさしい日本語）で話してみてくださいか」「スマートフォンを使うと、簡単に翻訳ができますよ」などのアドバイスをすると、後日、「話してみたら、日本語通じたわ」と、とても明るい表情でお礼を言われたことがあります。

見た目が外国人というだけで、「自分とは関係ない」「仲良くはなれない」と勝手に思い込んでいませんか。多くの外国人住民は伊賀市を「安全で暮らしやすいまち」と選んで暮らしています。外国人住民も伊賀市で暮らす大切な仲間です。私たち一人ひとりがお互いの違いを認め合い、共に学び合い支え合うことで、より活気に満ちた暮らしやすいまちになると思います。



ウィークリー伊賀市
特集動画

■ご意見などは人権政策課 ☎ 22-9683 FAX 22-9641

✉ jinken-danjo@city.iga.lg.jp へ

IGAMONO

伊賀
セレクション

No.59



みその謹製 伊賀名物 火遁メンチ

伊賀牛と三重豚を使用したメンチカツ

伊賀ブランドとして認定されている伊賀牛とこちらもブランドである三重豚を地元老舗の駒井精肉店より合挽きにしてもらい製造ごとに仕入れ、自店で手作りしています。

伊賀牛は旨みがあり、おいしいのはもちろんですがそこに伊賀らしさとして伊賀越さんの熟成味噌と戦国時代から保存食として愛されてきた五香漬を加え、味に深みを持たせました。

忍者の里と火を使うことから忍法火遁の術をイメージした、火遁メンチカツをぜひ、ご賞味ください。



有限会社レストラン美園
役員 福森 寿真子さん

祖父の代より伊賀の地で飲食店を営み、現在三代目となります。長年にわたり、地元のお客様に愛されご利用いただいています。三代目となり、店舗を名阪国道友生インター近くに移転しました。交通の便がよいことから近年、観光客の方々のご利用が増加しています。観光でお越しいただいた方々に伊賀特産



の伊賀牛を使用した商品を手軽に召し上がっていただきたいと思い、新しい商品を開発しました。微力ながら地元の盛り上げに少しでも貢献できればと思っています。



【問い合わせ】 ☎ 0595-21-3858

■伊賀ブランド推進協議会事務局（商工労働課） ☎ 22-9669 FAX 22-9695